

地方創生加速化交付金活用事業の実績報告

事業名：天の川プロジェクト

事業年度：平成 28 年度

事業の概要：“七夕伝説ゆかりの地”である枚方市、交野市における地域資源の活用やまちの魅力創造、情報発信の強化により、両市に、人と人が出会い、交流する機会を創出するとともに、両市を流れる七夕伝説ゆかりの天野川と並走する京阪電車交野線での来訪促進と沿線活性化を目指すもの。

具体的な内容としては、枚方市・交野市の産業振興キャラクター「ひこぼしくん」と「おりひめちゃん」、サンリオキャラクター「リトルツインスターズ（キキ&ララ）」をデザインしたラッピング電車を運行するとともに、交野線沿線に点在する名所や史跡などを巡るスタンプラリーの実施や、両市内の名所や史跡、グルメ、体験などのスポットを巡る日帰りバスツアーの開催などを行った。

総合戦略における位置づけ：基本目標「産業の活性化と人々の交流・賑わいの創出によりまちの魅力を高める」
施策目標「地域資源を生かし、人々の交流が盛んなまち」

事業費決算額：8,752,489 円（主な内訳：スタンプラリーやツアーの実施など）

交付金充当額：8,752,489 円

本事業における重要業績評価指標（KPI）：

- | | | |
|---------------------|-----------|-----------------------|
| ①指標名：ツアー延べ参加人数 | 目標値：500 人 | 実績値：639 人（H29 年 3 月） |
| ②指標名：スタンプラリー応募数 | 目標値：300 通 | 実績値：1220 通（H29 年 3 月） |
| ③指標名：ツアー協力店舗の新規雇用者数 | 目標値：3 人 | 実績値：1 人（H29 年 3 月） |

事業効果：一部の KPI については、目標値を達成できなかったものの、概ね成果が得られたと考える。

今後の方向性：本事業の実施にあたって設立した協議会（構成団体：枚方市、交野市、北大阪商工会議所、京阪電車や両市の観光協会等）の連携を生かし、両市の地域資源をテーマに事業展開を行い、名物となる新商品を開発することにより両市の産業の活性化及び両市の PR を行う。

外部評価員からの意見：

・協議会を継続しながら、枚方と交野が連携して観光を続けていくメリットを考えるべきである。一定の事業費を投入して継続するのであれば、市内産業・経済活性化につながる仕組みを生み出していく必要がある。

・また、継続実施するというのであれば、今後の方向や可能性の検討に向けて、振り返りをするべきである。その際には、民間事業者の費用負担が発生している中で、それぞれの立場からの効果が見込めないと継続は難しいと考えられることから、京阪電車にとっては乗降客数が増えたか、観光業者にとっては誘客、波及効果があるかなどの視点を踏まえて今後の方向性を検討する必要があるかと思う。

事業名：IT を活用した健康生涯活躍のまち及びヘルスケアビジネス創生事業

事業年度：平成 28 年度

事業の概要：関西医科大学を中心に産学公が連携して、ICT を活用した市民への健康に関する情報提供やインセンティブポイント制度の創設などに向けた検討を行うことで、市民の健康寿命の延伸を図るとともに、ヘルスケアビジネス創出の契機とする。

具体的な内容としては、歩数や睡眠時間等を計測できるウェアラブル生体センサーを市民に貸与し、蓄積された計測データを基に、個別に健康に関する各種情報を提供することで、自分に合った情報を効率よく得ることができる。また、データの蓄積や、健康行動の改善に伴って、ポイントを付与し、食品、食材、機器、運動等のプログラムなどの健康サービスの購入に活用することができる仕組みの構築可能性について検証する。また、健康サービスに係る事前認証制度を採用するとともに、利用者による事後評価のシステムを構築することで、信頼性の向上を図る。さらに、本市の国民健康保険被保険者を対象に、特定健診受診率向上に向けたインセンティブ制度に係るアンケートを実施する。

総合戦略における位置づけ：基本目標「市民の健康増進や地域医療の充実を図る」

施策目標「誰もがいつまでも心身ともに健康に暮らせるまち」

事業費決算額：27,472,232 円（主な内訳：関西医科大学への補助金など）

交付金充当額：27,472,232 円

本事業における重要業績評価指標（KPI）：

①指標名：生体センサー利用者数	目標値：50 人	実績値：280 人（H29 年 3 月）
②指標名：アンケート人数	目標値：2,500 人	実績値：2,509 人（H29 年 3 月）
③指標名：健康関連食材、食品、店舗、運動施設等の登録事業者数	目標値：10 社	実績値：40 社（H29 年 3 月）
④指標名：健康関連食材、食品、店舗、運動施設等の登録事利用者数	目標値：50 人	実績値：30 人（H29 年 3 月）

事業効果：一部の KPI については、目標値を達成できなかったものの、概ね成果が得られたと考える。

今後の方向性：ウェアラブル生体センサーによる身体活動を中心とした新たな健康行動の波及効果は認められたが、健康商品の消費や購入拡大にはまだ十分な効果が認められず、引き続き取り組みを進める必要がある。

外部評価員からの意見：

- ウェアラブルセンサー利用者には、歩数の増加が見られたことから、健康増進には結びついたと言えるが、センサーに蓄積されたデータを基に、健康創生ステーション（本事業の事務局）からメールで送られてくる、自身の健康状態に関する情報だけでは、認証商品やサービスを購入するなどの行動変容には結びつかなかった、と総括すべきかと思う。
- ウェアラブルセンサーの機能向上や、ホームページからの情報提供の充実などにより、市民一人ひとりにあったサービスや情報の提供を行う仕組みを構築し、健康に対する意識をどう触発していくのかを検討し、今後の健康づくりに生かしていく必要があるのではないか。